



2024年7月20日発行

拝啓

梅雨も明け、いよいよ夏も本番です。皆さん夏休みの過ごし方はお決まりでしょうか？

図書館の読書コーナーには LiLian が選んだ小説・写真集・レシピ本などがたくさんあります。きっと「この夏に読みたい一冊」が見つかるはずです。涼しい図書館にもぜひお越しくださいね。

かしこ

--今月号のラインナップ--

Calendar

2024年8月～9月カレンダー

LiLian Special Info.

夏に読みたいおすすめ小説

今月の一冊

『烏に単は似合わない』

LiLian Interview

大山小夜先生（人間科学部 多元心理学科）



2024年8月・9月 カレンダー

8月

◎ 8 : 30 ~ 20 : 00

○ 9 : 00 ~ 16 : 30

日	月	火	水	木	金	土
				1 ◎	2 ◎	3 ○
4 休館	5 ◎	6 ○	7 ○	8 ○	9 ○	10 休館
11 休館	12 休館	13 休館	14 休館	15 休館	16 休館	17 休館
18 休館	19 休館	20 ○	21 ○	22 ○	23 ○	24 休館
25 休館	26 ○	27 ○	28 ○	29 ○	30 ○	31 休館

9月

◎ 8 : 30 ~ 20 : 00

○ 9 : 00 ~ 16 : 30

日	月	火	水	木	金	土
1 休館	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○	6 ○	7 休館
8 休館	9 ○	10 ○	11 ○	12 ○	13 ○	14 休館
15 休館	16 休館	17 ○	18 ○	19 ◎	20 ◎	21 ○
22 休館	23 ◎	24 ◎	25 ◎	26 ◎	27 ◎	28 ○
29 休館	30 ◎					

最新情報はHPを
ご確認ください →



LiLian Special Info.

♪ 夏に読みたいおすすめ小説 ♪

毎日暑い日が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。
暑い日は外に出ずに、涼しい部屋でのんびり過ごしたいものですね。
そこで今回は、夏に読むのにぴったりな小説を3つ紹介したいと思います。
涼しい部屋で、ゆったり読書を楽しみませんか？
紹介した本はすべて閲覧室 2F 読書コーナーの文庫棚にあります。

『島はぼくらと』 辻村深月/著

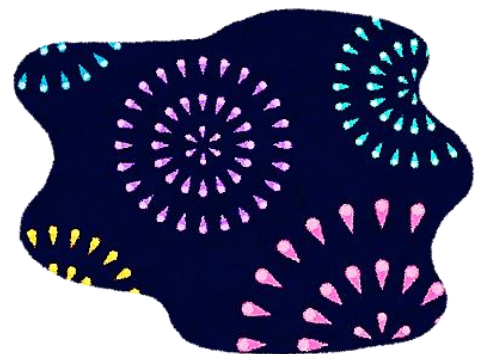
請求番号 913.6/Ts44/17a

瀬戸内海に浮かぶ離島で暮らす、4人の高校生たち。
彼らの友情と恋、そして旅立ちを描いた青春小説です。

『夏と花火と私の死体』 乙一/著

請求番号 913.6/O875/2a

9歳の夏休みに、「わたし」は友人に殺された。
「わたし」の死体を隠そうとする友人を、
死体となった「わたし」視点で描きます。
ゾクッとできるホラー小説。



『思い出のマーニー』

ジョーン・G・ロビンソン/著

請求番号 933.7/R54

2014年に公開された、ジブリ映画の原作です。
心を閉ざした少女アンナは、とある町で不思議な少女マーニーと出会います。
自然豊かな町で織りなす、ひと夏の物語です。

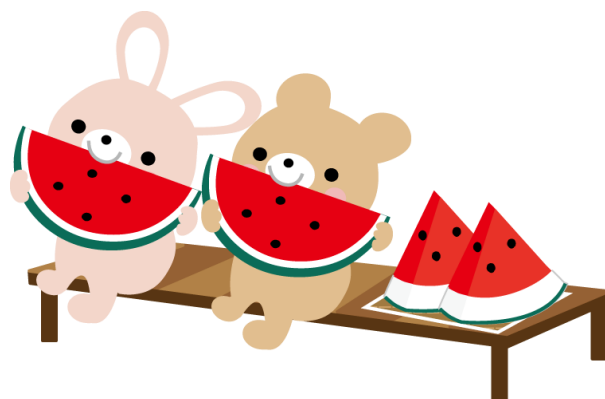
*** 今月の一冊 ***

『烏に単は似合わない』 阿部智里／著

913.6
A128
(1)

閲覧室3F

^{やたら}「八咫烏」の一族が支配する世界で、姫達はそれぞれに春夏秋冬の殿を与えられ、世継ぎである若宮の後の座を争います。しかし、姫達にはそれぞれ事情があるようで…
これでもか…！！という程に伏線が散りばめられていて、読み終わってすぐにもう一度読み直したくなります。
次巻である『烏は主を選ばない』では若宮側の事情が描かれており、併せて読むと更に面白く感じる事間違い無しです！！
コミカライズやアニメ化もされていますが、文字で書かれた物語だからこそ面白いポイントが幾つもあるので、既に知っている…という方にも、ぜひ読んでいただきたい作品です。
(みさ)





LiLian Interview

大すきな先生に
インタビューに
行こう 61

人間科学部 多元心理学科

大山 小夜 先生



1. 休日は何をして過ごされていますか？

翌週の授業準備をすることが多いです。そうでないときは、いま編集メンバーとして関わっている学術誌『ソシオロジ』に投稿された論文をチェックしています。この雑誌はあえて同人誌を名乗り、投稿されたものは原則、却下しないというポリシーでやっています。全部読んでコメントを書き、掲載できるところに至るまでには何が必要かを投稿者とやりとりしています。

2. 尊敬する人物や偉人を教えてください

宝月誠先生と木村達也先生です。

宝月誠先生は社会学者で、犯罪や逸脱の理論研究をしています。私は宝月先生のゼミ生（大学院）で、先生は私にとって社会学の“お父さん”です。どんなことがあってもコツコツ丁寧に研究されていて、コロナ禍にも『シカゴ学派社会学の可能性』という新刊を出されました。学生や大学院生にも敬語を使われ、一人の人格をもった存在として認めてくださいます。

木村達也先生は大阪で弁護士をされています。30代の頃、当時（1970年代）深刻だったサラ金（＝借金）の相談を受けたことをきっかけに、サラ金問題の研究会と当事者の会を作られました。その活動が基点となって2006年に改正貸金業法がつくられ、借金の問題は大きく改善されました。1990年代後半、この問題に関心をもった私は、木村先生の事務所を訪れました。素性の知れない若者が突然やってきたのに、活動初期の貴重な資料を惜しげもなく貸してくださいました。心躍り持ち帰ったことを思い出します。先生が作った団体が数年前に40周年記念誌を作りました。そのときの執筆に参加したときは頑張って書きました。

3. なぜ社会心理学を研究しようと思ったのですか？

幼い頃から自由研究が好きで、最初の自由研究は小学生の時です。スイスの製薬会社が環境規制の緩いイタリアに進出し、移転先の工場が爆発して科学物質がセベソという町の人に被害を及ぼしたという出来事が書かれた児童書を図書館で見つけ、読み、年表にまとめたことです。年表にすると見えなかったことが見えてきたのが大発見でした。

中学生の時は、三角形（トラス構造）を組み合わせで建設された瀬戸大橋の模型を紙で作って提出しました。先生からは何の反応もなかったのですが、作っているときは本当に楽しかったです。今はそうした自由研究の延長線上という感じがします。社会学の中でも、私は人の営みと社会の大きな動きの両方を見たくて、結果的に社会心理学という分野に行き着きました。

4. 金城の先生になったきっかけは？

関西出身で名古屋には縁がなかったのですが、20代の頃、本学が人間科学部を創設することになり、丸木恵祐先生が中心となって教員を集めていたところ、声をかけていただきました。最終面接で

「学生にとっていいお姉さんであってください」と言われたことが印象に残っています。



5. 金城で1番心に残っていることは何ですか？

学生さんのことはあまりにもたくさんあるので職場としての話をします。学長の小室先生が「金城はファミリー」と言われたことがあるのですが、本当にファミリーのような感覚で働いている方を見ると、ぐっと来ます。もう退職された方なのですが、休み時間、ある職員さんがスコップを持って斜面のフェンス付近で何やら作業していました。尋ねると、雨が降ってフェンス下にできてしまった隙間を「危ない」と思いスコップで埋めていたのですね。事務職の方なのにそういうことをされていて…そういう方たちと働くことができ楽しいです。

6. 大学の先生になって良かったことは何ですか？

学生さんと出会えることです。入学してから卒業するまでの変化や成長に触れ、卒業式日は感慨深い気持ちになります。こういう気持ちを味わえるのはこの仕事だからだと思うので、なってよかったなと思います。

7. 金城生にオススメの本、先生の好きな本は何ですか？

社会学者の井上俊先生による『悪夢の選択』*です。

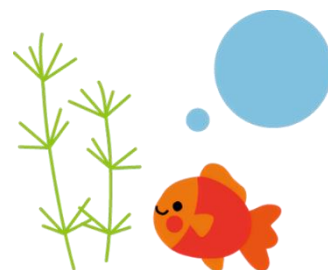
なかでもコンラッド著『闇の奥』を分析した「悪夢の選択」という、著書と同名の章が好きです。人生は悪夢の連続で、その中で、よりましな悪夢を選択するようなもの、ということが書かれているんです。その根底には、人間は一方にエゴイズム、他方に理想があって、その両方の間で揺れ動く。それが人間である、という考え方があります。たとえば、電車で誰もが席を譲らない冷淡な社会もダメだけれど、誰もが進んで席を譲る社会もおかしいよね、といった具合です。どっちがいいかと悩むのが人間として、社会として健全である、という感覚を大事にしたいと思っています。

*井上俊著『文化社会学界限』に再録

8. 金城生に伝えたいことは？

北原ルミ先生も以前、本誌でおっしゃっていましたが、「どうぞいろんな世界観に触れてください」。大学では教員が教えてくれる学問を通じていろんな世界観に触れることができます。理想的な世界観、野蛮で暴力的な世界観もあれば、ただ悩んでいる世界観などもあります。世界観にたくさん触れると人生が豊かになり、自分なりの世界や世界観が築けます。

そう思って大学でいろんな人と接すると面白いのではないのでしょうか。



☆インタビューを終えて

キラキラした目で楽しそうにたくさんお話してくださいました。質問にもひとつひとつ丁寧に答えていただき、授業では話されない、好きなことや学校のことを聞けて、楽しい時間を過ごすことができました。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

(しおり)

大山先生とは初めてお会いしたのですが、とても優しく素敵な考えを持たれている方で先生の授業を受講してみたいくなりました。尊敬されている人物について質問した時には、本当に尊敬されていることが伝わってきて、二人も尊敬できる方がいることが凄いいと思いました。

(はせがわあやか)

紹介された本（金城学院大学図書館所蔵）

『文化社会学界限』 請求記号：361.5/I57/5

（『悪夢の選択』が掲載されています）

